

# 五合榊遺跡（仏法寺跡）発掘調査の概要





## ～はじめに～

古都鎌倉の歴史遺産は、平成4年に日本国政府が作成した「世界遺産条約文化遺産暫定一覧表（暫定リスト）」に「古都鎌倉の寺院・神社ほか」として登載されています。

鎌倉市では、平成8年度から市の総合計画に「世界遺産一覧表への登載の要請」を掲げ、地元としての準備を進めてまいりました。

今回ご紹介する五合榊遺跡（<sup>ごごうます</sup>仏法寺跡）発掘調査は、鎌倉七口のうち唯一国指定史跡に指定されていない極楽寺切通周辺の史跡指定に向けた資料を得るため、<sup>りょうざん</sup>霊山山で確認されていた「仏法寺跡」の平場を中心に、平成14年度に文化庁と神奈川県教育委員会の補助と指導を受けて実施したものです。

本冊子は、調査の概要をわかりやすく市民の皆様にご紹介するため、まとめたものです。

ここが鎌倉を守る上で要衝の地であり、また「霊山」の名にふさわしい場であったことがおわかりいただけると思います。

### ～目次～

1.調査の経過と調査区	2
2.五合榊（A区）の調査	3
3.縦壇状の平場（B区）の調査	5
4.大きな塚のある平場（C区）の調査	7
5.仏法寺跡（D区）の調査	8
6.調査のまとめ	14

### ～例言～

- ◎本冊子は平成14年度に実施した「五合榊遺跡（仏法寺跡）発掘調査報告書」の概要です。
- ◎編集は、鎌倉市教育委員会世界遺産登録推進担当が行いました。  
また、写真等は当委員会が保管しているものを使用しました。

本冊子でご紹介する発掘調査は、土地所有者の方々のご理解とご協力をいただき実施したものです。  
現在、各調査区への立入りはできません。

#### 【表紙写真の説明】

「仏法寺跡」（D区）から鎌倉市街を望む（p.8）

# 1 調査の経過と調査区

この発掘調査は、平成14年度世界遺産登録事業の一環として、いわゆる鎌倉七口（七切通）のうち唯一国指定史跡に指定されていない「極楽寺坂」周辺の史跡指定に向けた資料を得るため、文化庁・神奈川県教育委員会の補助・指導を受けて実施したものです。

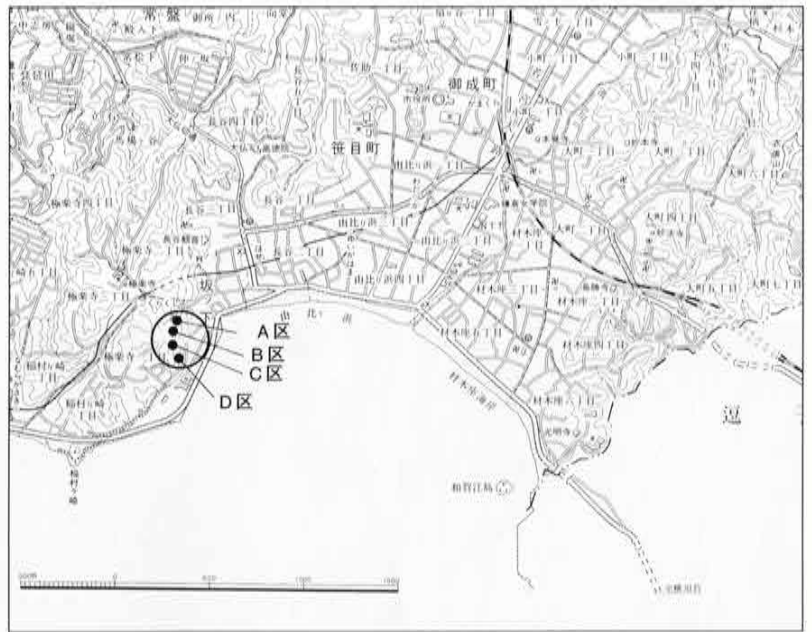
調査は、平成12年度に実施した『古都鎌倉』を取り巻く山稜部の発掘調査で確認された「仏法寺跡」の平場を中心に、極楽寺坂の南側に連なる<sup>りょうぜん</sup>霊山山稜部に4箇所<sup>ぶつぽうじ</sup>の調査区（A・B・C・D区）を設け実施しました。調査面積の合計は約1,100㎡です。

A区は土塁に囲まれた「五合枿」と呼ばれる枿形遺構のある平場で、成就院の真上に位置し、眼下に極楽寺坂を見下ろすことができ、また鎌倉市街地を一望できる所です。

B区は、霊山山頂の北側にある三段の雛壇状の平場に設定しました。ここでは多数の石塔類と火葬骨が出土し、供養に係わる場であったと推定されます。

C区は、霊山山頂の南側にある平場です。コッホ博士を記念した石碑が大正元年に立てられた所で、大きな塚（直径約8m・高さ約2.5m）があります。

D区は霊山山頂から南に向かう尾根の東側中腹にある平場で、仏法寺跡と推定されていた場所です。礎石建物跡や池跡が確認されました。忍性と日蓮による雨乞合戦の伝承のあるこの池からは、多数の柿経（薄い板に写経したもの）が出土しました。



調査区位置図



仏法寺跡（D区）全景（北から）



## 2 五合榊（A区）の調査

極楽寺坂に面した成就院背後の山腹に五合榊と呼ばれる<sup>ますがた</sup>榊形遺構（周囲を土手状の高まりによって囲まれた方形の平地）があります。

榊形遺構は一辺13mほどの方形の平地で、標高は約72m、旧極楽寺坂の高さといわれている成就院からの比高は約35mあります。周囲の土手（土塁）は幅3m、高さ0.6mほどで、土を盛り上げて造ったものです。平成12年度の調査では塚ではないかと推測されましたが、直線状に造られた土塁であることが確認されました。北東隅は低くなっており、出入り口であったかもしれません。

この土塁の内側斜面は14世紀後半～17世紀にかけて直線的に削平され、<sup>ごりんとう</sup>五輪塔や<sup>いたび</sup>板碑が据えられていました。この時期には墓所あるいは供養所として使われていたのかもしれませんが。また平地からは13世紀後半～14世紀前半のかわらけが出土したことから、鎌倉時代末には存在していたことが確認されました。



五合榊（A区）全景（北東から）



13世紀後半～14世紀にかけて存在した柵形遺構は、市立稲村ヶ崎小学校の裏山にある一升柵遺跡と、十二所の鑪ヶ谷遺跡があります。前者は極楽寺から大仏坂に抜ける尾根道に接して存在し、後者は朝夷奈切通の入り口に在りました。

五合柵も極楽寺坂と稲村口と呼ばれる海沿いの道が合流する位置に存在することから、このような柵形遺構はいずれも交通の要所に造られていることが分かりました。このことから、元弘3年（1333）の鎌倉攻めに際して激しい攻防が行われたことがうかがわれます。



五合柵眼下の成就院



五合柵眼下の極楽寺坂



北辺土塁（南から）



板碑出土状況（南から）



東辺土塁（北西から）



西辺土塁（北東から）



### 3 雑壇状の平場（B区）の調査

五合榊（A区）の南側は、次第に高くなり、三段の<sup>ひなだん</sup>雑壇が形成されています。頂上は標高約84mで、五合榊より12mほど高く、頂上付近には高さ45～70cmの塚状の遺構が4基あります。

そのうちの頂上付近にある塚を調査したところ、長さ約40cm、幅約54cm、厚さ約12cmの鎌倉石の切石を一行に4個並べた石列が発見されました。塚の頂部には一辺約3mの石列が四角形に巡っていたと推測されます。

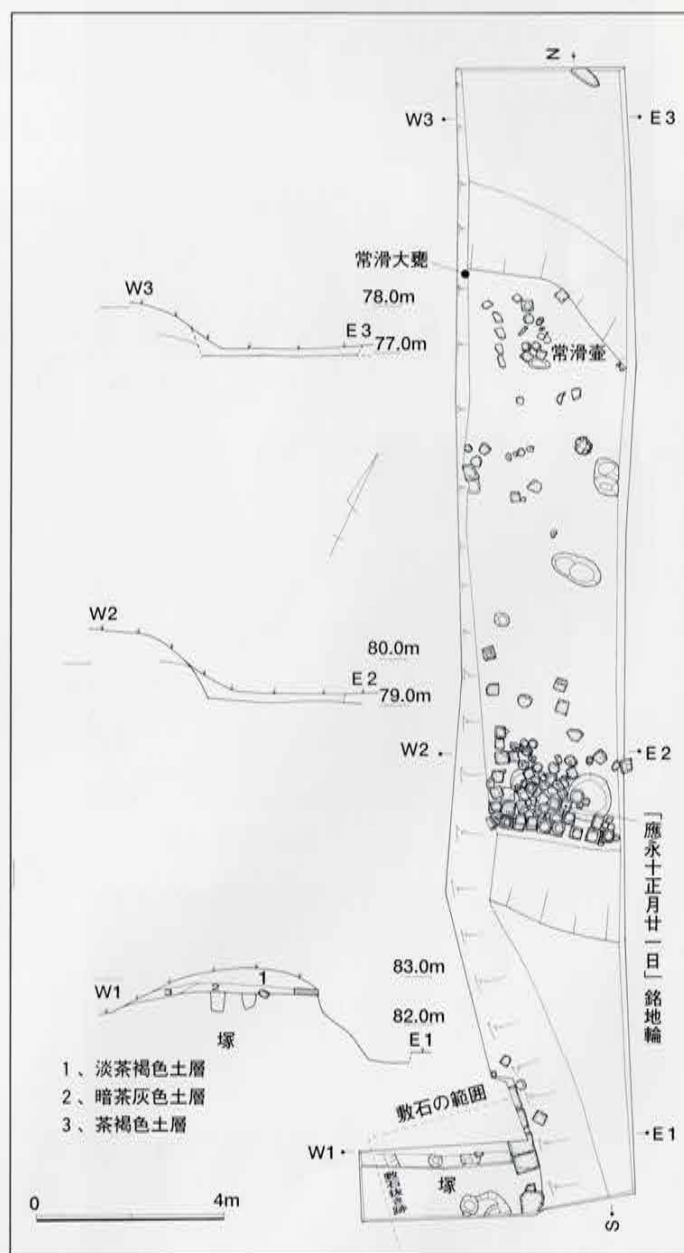
平成12年度の調査で発見された大塚（C区）の頂部に同様の石列が存在したことから、何を祀ったのかは分かりませんが、頂部に四角い区画を持つ塚が山頂部に集中して作られていることが分かりました。



B区全景（北から）



B区（南から）



B区実測図



西壁内常滑大甕出土状況



常滑壺出土状況



常滑大甕実測図



中段斜面の焼骨

この三段の平場は、尾根の東側を掘って造成しています。このうち中段の平場は北側が緩い斜面となっており、ここは古い地形が残っていると考えられました。ここからは高さ40cmほどの13世紀後半代の<sup>とこなめつぼ</sup>常滑壺や、高さ80cmほどの14世紀末～15世紀前半代の常滑大甕<sup>かめ</sup>が埋められていましたが、中からは出土品はありませんでした。

さらに、この中段の平場は上段との段差が2mほどありますが、段差に沿って五輪塔の<sup>ちりん</sup>地輪・<sup>かりん</sup>火輪・<sup>すいりん</sup>水輪などが並べられていました。これらは、鎌倉時代から室町時代までのものが集められており、その中には「應永十正月廿一日」（1403年）の年号を持つものがありました。

このことから、15世紀前半以降に土地の造成が行われ、周辺にあった石塔が集められたのではないかと推測されます。

このほかこのB区の平場からは14～15世紀代の常滑壺や15世紀代のかわらけ、焼けた人骨や五輪塔の部材などが出土しています。

このように柵形遺構から山頂部に至る尾根上からは、石塔や塚・埋甕などが発見されました。これらは埋葬というより供養にかかわるものと考えられ、「霊山」という名にふさわしい遺構と考えられます。



## 4 大きな塚のある平場（C区）の調査

ここは霊山山頂の南側、標高約80mに位置する東西約15m、南北約20mの平坦地です。明治39年に来日し、この地に立ったツベルクリンの発見で知られるドイツの細菌学者コッホ博士を記念した石碑（昭和58年に稲村ヶ崎に移され、現在はその経緯を刻んだ移設記念碑がある）があったところです。



C区と大塚  
(南から)

ここには直径8m、高さ2.5m、横から見ると釣鐘のような形をした大きな塚があり、平成12年度の調査では、塚の中には15～16世紀のかわらけ、常滑壺、13世紀前半の渥美壺、板碑、五輪塔、礫、火葬骨片と須恵器、弥生土器片も混入していることがわかりました。このことと各調査地点の土層堆積を観察すると、この塚は13世紀後半代には基本形としての塚が存在して、14世紀末～16世紀に改めて整備され最終的に遺物が塚頂部にまとめられていったものと考えられます。

平坦地の部分は近現代の攪乱と削平が著しく、残念ながら遺構はなにも検出されませんでした。



平成12年度の塚の調査（西から）



## 5 仏法寺跡（D区）の調査

仏法寺は「極楽寺境内図」の靈鷲山<sup>りょうじゅざん</sup>と書かれた山に描かれています。

山頂部（C区）の塚状遺構の南側約60mの所に、南北約70m、東西約15mの平坦地があり、ここがその跡と考えられています。この平場は標高約60mで、東側を海に面した山稜部から15mほど下った山腹にあります。眼下に鎌倉の海と市街地・三浦半島などが一望できる絶景の地です。



仏法寺跡の池と建物跡（左上が池・北東から）

発掘された平場はほぼ全面が岩盤を平らに削り出して造られ、その山側に柱間一丈（約3m）で南北四間、東西二間以上の礎石を持つ建物跡が発見されました。この建物は通常の住居より規模が大きく、堂跡と考えられます。





D区より由比ガ浜を望む



調査前の池周辺



池全景とD区（南西より）



池東辺の落ち込み（西から）



池全景（南東から）



礎石出土状況



岩盤を掘って礎石を据えた跡

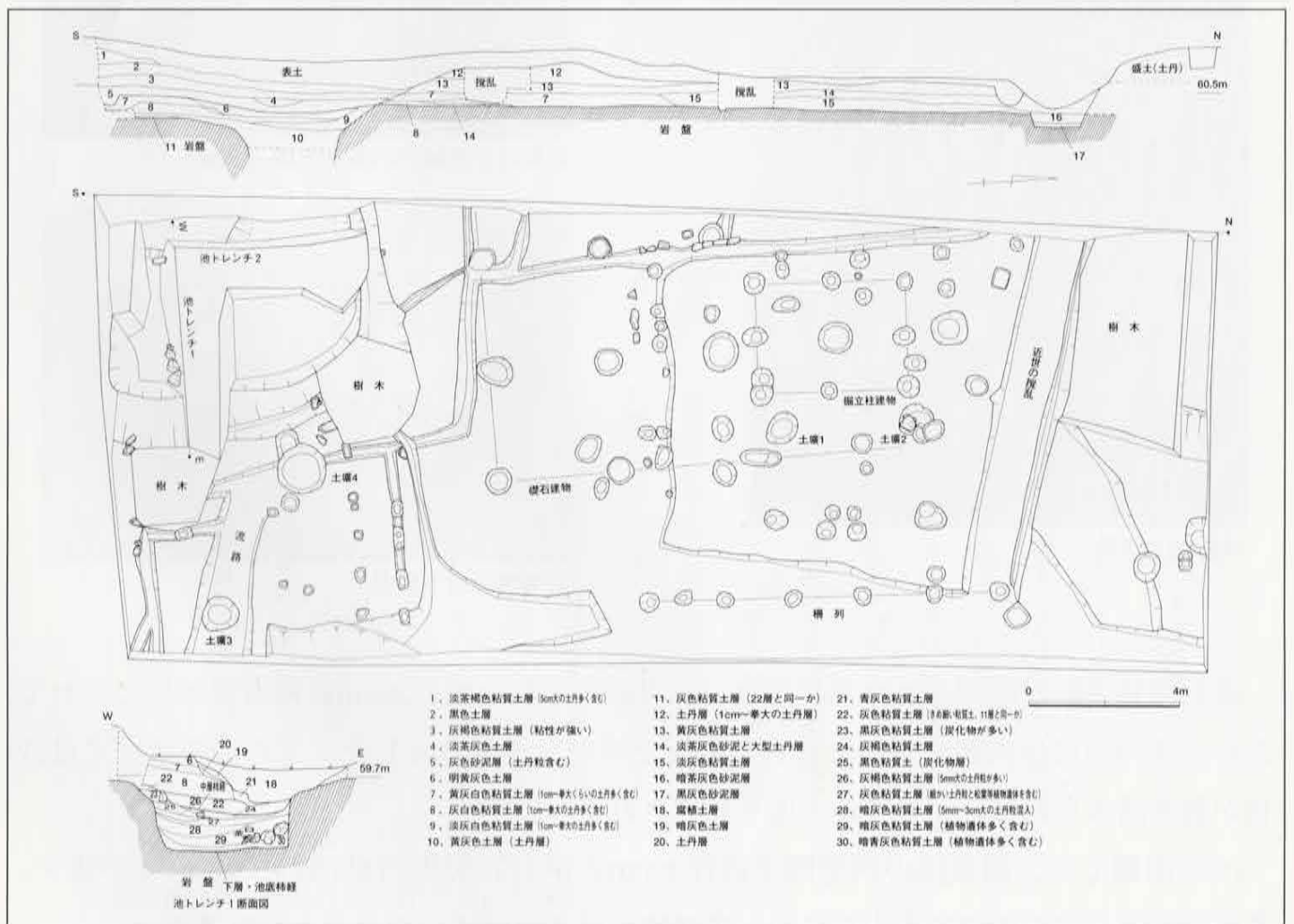


建物の南側には、岩盤を2mほど掘り込んだ一辺8m余りの池が発見されました。これは「極楽寺境内絵図」にある「<sup>あまごいのいけ</sup>請雨池」に当たると考えられます。池の中からは箱根の溶岩を50cm大に切った庭石と思われる石が出土していることから、庭としての景観を持った池で、礎石の建物は池に南面して建てられていたと考えられています。

建物のがけに面した部分には、柵・塀と考えられる柱列が何条か発見されました。このことから仏法寺は三方を山で、海側のがけ上を塀で囲まれた閉塞性の高い寺院であったことが分かりました。

これらの遺構は、出土したかわらけなどから13世紀後半に造られ、16世紀ごろまで存在したと推定されます。

元弘3年（1333）の鎌倉攻めは、<sup>ぐんちゅうじょう</sup>靈山山の攻防であったことが軍忠状などによって知られていますが、実際に戦闘が行われた仏法寺が非常に閉塞性の高い防御に優れた施設であったことが今回の発掘調査からうかがわれます。



D区全測図



前述の池の中からは、中層と下層にわたって多量の柿<sup>こけらまじり</sup>経が一面に広がるように発見されました。柿経は薄い板状の木片にお経を書いたもので、中層で発見された15枚の重なった柿経は、どれも長さ215mm、幅13mm、厚さ0.5mmの非常に薄いもので、頭部を三角に切っており、一枚の柿に17文字を基本とし、「法華経」が連続して書かれています。また分析の結果、材質はヒノキとサワラであることが分かりました。

池の中層からはこの他、14世紀末～15世紀代のかわらけ、常滑甕口縁部、安山岩製五輪塔の火輪、また、池底からは、池に奉納されたと考えられる大量の火葬骨や茶臼、13世紀後半代のかわらけ、天目茶碗<sup>てんもくちやわん</sup>、木製品が出土しました。



柿経出土状況



池東辺と玉砂利のある土壙（北から）

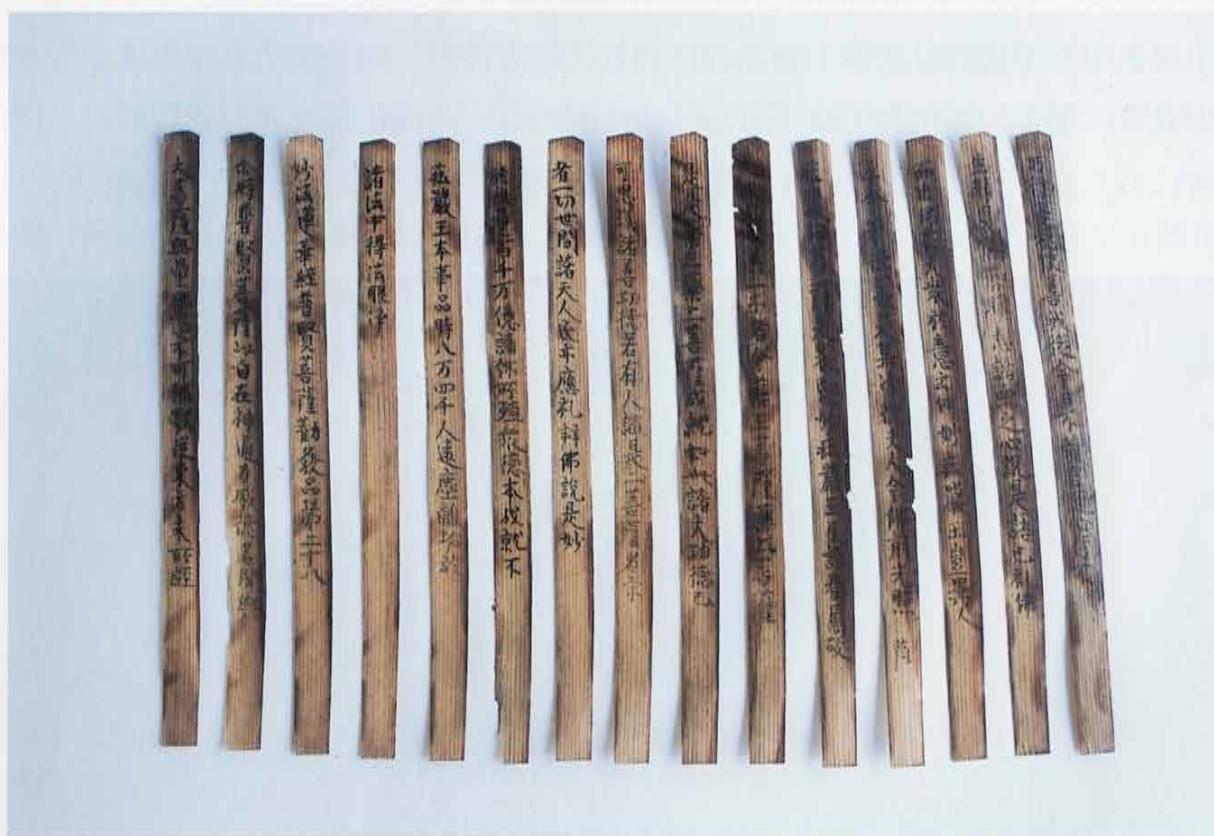


常滑甕の出土状況

礎石建物の跡が確認された平場では、13世紀後半代の底径20cmの常滑甕が据えられており、その中には火葬骨が納められていた土壙<sup>どこう</sup>が発見されました。また池のそばでは砂利が敷き詰められていた二つの土壙も発見されました。

池の南側では、調査区の西壁際で直径30cmの伊豆石製礎石が1個発見されています。このことから池の南側でも山裾に沿って建物が建てられていたと考えられます。





柿 經

- 3行
- 2行
- 1行
- 103行
- 102行
- 101行
- 100行
- 99行
- 98行
- 97行
- 96行
- 95行
- 94行
- 93行
- 92行

妙法蓮華經妙莊嚴王本事品第二十七

所行安穩快善我從今日不復自随心行不生邪見憍慢瞋恚諸惡之心說是語已礼仏而出仏告大衆於意云何妙莊嚴王豈異人乎今華德菩薩是其淨德夫人今仏前光照莊嚴相菩薩是哀愍妙莊嚴王及諸眷属故於彼中生其二子者今藥王菩薩藥上菩薩是是藥王藥上菩薩成就如此諸大功德已於無量百千万億諸仏所殖衆德本成就不可思議諸善功德若有人識是三菩薩名字者一切世間諸天人亦礼拝仏說是妙莊嚴王本事品時八万四千人遠塵離垢於諸法中得法眼淨

妙法蓮華經普賢菩薩勸発品第二十八

爾時普賢菩薩以自在神通力威德名聞与大菩薩無量無邊不可称数從東方来所經

※写真の柿經は99行が101行の次になっています。



仏法寺跡及び五合柵のある霊山山からは鎌倉の海をはじめ、三浦半島、大島、相模湾、伊豆半島までもが見渡せます。極楽寺は和賀江嶋で津料を取り、それを修理する権限を持つと共に、前浜の殺生禁断権をもっていました。その権限を有した地域が一望できる場所にあることから、仏法寺はそうした権限と関わっているとも考えられます。



D区全景（上が東・海側）



## 6 調査のまとめ

京と鎌倉を結ぶ鎌倉の西の玄関口に当たる極楽寺坂は成就院付近で稲村ガ崎の東側、霊山崎を巡る稲村道と合流していたと考えられています。今回発掘調査が行われた五合榎はこれら二つの道に挟まれた山頂付近に造られた榎形遺構です。関所などの交通遺跡と考えられ、14世紀後半以降は石塔が設置される宗教的な場に移行しています。

極楽寺坂南側の山稜は極楽寺の山号（霊鷲山）となっており、山頂に存在する塚や石塔はそうした宗教性を示すものであると考えられます。

東側山腹には極楽寺開山の忍性が開いた仏法寺があったと伝えられています。軍忠状では元弘3年（1333）に行われた鎌倉攻め稲村合戦の主戦場が「霊山寺」であった事が分かりますが、この霊山寺こそ仏法寺であり、今回の発掘調査によって礎石建物跡などが三方を山、海側を塀などの掘立柱列によって囲まれた、閉塞性の高い寺院であったことが分かりました。またここでは忍性の雨乞い伝承がある池跡を発掘し、多数の柿経を発見することができました。

仏法寺跡からは極楽寺が津料をとる権限を持っていた和賀江嶋や殺生禁断権を持っていた前浜などを含め、鎌倉湾全体を見渡すことができ、山頂からは遠く伊豆半島から三浦半島を含め相模湾全体を眺めることができます。この地が陸上交通だけでなく、海上交通を見張る要衝の地でもあり、鎌倉の西側に位置する重要な区域であることが分かりました。

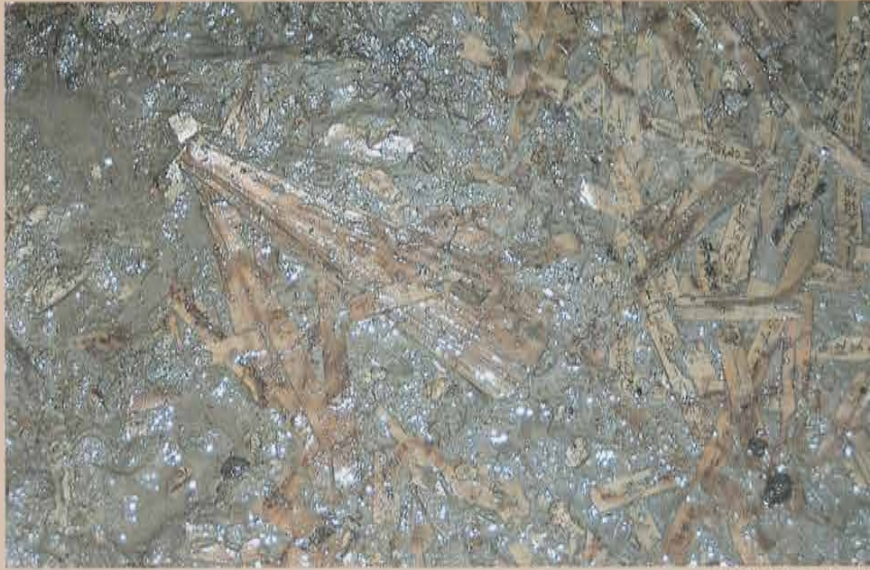
Gokurakujizaka slope is the west entrance of Kamakura. That slope crossed with Inamuramiti way around Joujuinn temple. We excavated Gogoumasu site put in those two ways. Those remains are in the summit of a mountain part, it is called Masugata. It can think about those remains with the traffic remains such as a barrier. That place became a religion like place where stone tower installed at 14 centuries after the latter half.

The mound which exists in the summit of a mountain on Gokurakujizaka slope south side, and a stone tower can be thought to show the religion of Gokurakuji temple.

It is transmitted on the mountainside at the east side that there was built Buppouji temple by Ninshou who was built Gokurakuji temple. Kamakura attack in 1333 was done at Buppouji temple. We excavated Buppouji temple mark, and we discovered a foundation stone there, and knew that there was a building. The blockade of having a mountain at the three sides, the seaside surrounded by a wall was the temple whose it was high there. It was excavated, where the pond mark with the pray for rain tradition of Ninshou and large quantities of Kokera sutras could be discovered here.

The whole of Kamakura bay can be seen from Buppouji temple mark, and the Miura Peninsula is far included from the Izu Peninsula, and it can look at the whole of Sagami bay from the summit of a mountain. This ground was even in the ground of the important point of not only the land traffic but also the marine traffic, and it was found out that it was the important zone located militarily on the west side of Kamakura.





柿經出土状況

## 五合榎遺跡(仏法寺跡)発掘調査の概要

発行日	平成15年11月15日
編集・発行	鎌倉市教育委員会 世界遺産登録推進担当
印刷	グランド印刷株式会社